

# CADWe'll Linux

体験セミナー

電気設備  
～ 初級編 ～



## 目次

1-1. 画面構成	1
1-2. シート機能	1
2-1. 基本作図	2
2-2. 作図補助	2
2-3. 編集機能	2
3. 設定マネージャ	3
4. 3D展開	4
5-1. 照明器具配置	5
5-2. スイッチ配置	6
6-1. 配線作図	7
6-2. 回路番号作図、負荷容量付加	8
6-3. 点滅区分、条数付加	9
6-4. 配線一括変更	10
7-1. 寸法線作成	11
7-2. シンボル表、配線注記表	12
7-3. 表更新	13
8-1. ラック作図①	14
8-2. ラック作図②	15
8-3. ラックケーブル作図	16
9-1. 干渉検査	17
9-2. ラック編集(FL変更)	18
9-3. スリーブの自動配置	18
10. 数量拾い	19
11. 3D PDF	20

## 1-1. 画面構成

▼ [クイックアクセスバー] 使用頻度の高いコマンドを表示

▼ [メニューバー] Linxの機能をメニュー形式で表示

▼ [ツールバー] 自由にカスタマイズ可能

▲ [ガイダンスバー] 実行中のコマンドや操作説明を表示

▼ [コマンドプロパティウィンドウ] コマンドの設定情報を表示

▼ Tfas同様にシート機能を搭載

マウスの操作方法

- ◆ 左クリック  
コマンドや図形の選択・実行
- ◆ 右クリック  
よく使う機能をメニュー形式で表示
- ◆ ホイールボタン  
画面の拡大 (PageUp) ↑ ↓ 画面の縮小 (PageDown)

※ホイールボタンを押したままドラッグすると画面移動(パニング)ができます。

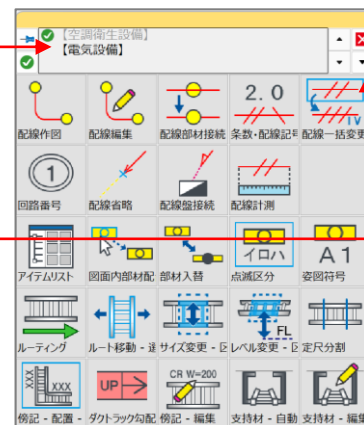
コマンドの選択方法として、コマンドランチャーを追加しました。

コマンドランチャー

右クリック+下ドラッグ



- ◆ ページ名表示欄  
マウスカーソルを置くと、ページ一覧が表示されます。  
ホイール操作で設備の切り替えができます。
- ◆ メニューボタン  
▼ をクリックすると、選択中のページをツールバーとしてエクスポートしたり、パネルの大きさを変更できます。

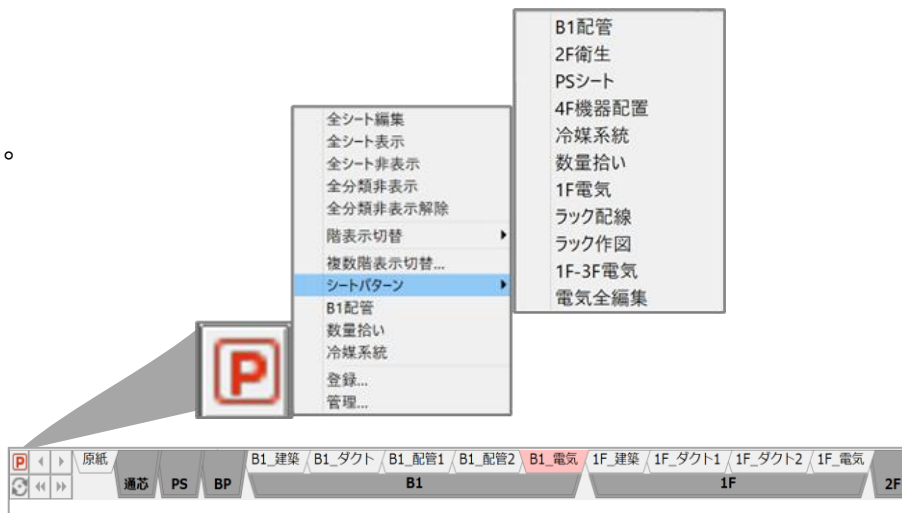


## 1-2. シート機能

Linxでは目的・用途等に分けてシートを作成できます。  
シートごとに作図を行い、最終的に統合することで図面を完成させます。

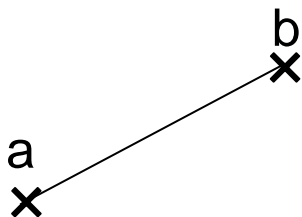
シートごとに基準の高さを設定し、シートに階情報を持たせることができます。

シートパターン機能 で各シートの表示/非表示の状態を保存し、必要に応じて切り替えることができます。

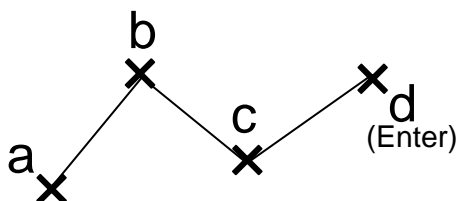


## 2-1. 基本作図

◆メニューバー[基本図形]  
-[線分]-[始・終点]



◆メニューバー[基本図形]  
-[折線]-[折線]



◆ツールバー  
[文字・引出線] A



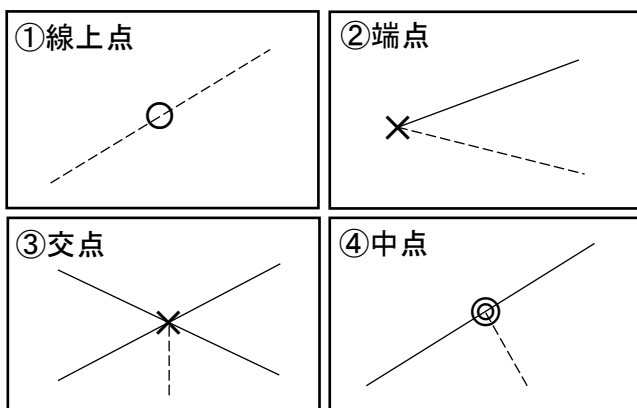
※操作の途中でひとつ前の手順に戻るには、<Backspace>します。

※完了した操作を元に戻すには[元に戻す] 、元に戻した操作を回復するには[やり直し] をします。

## 2-2. 作図補助

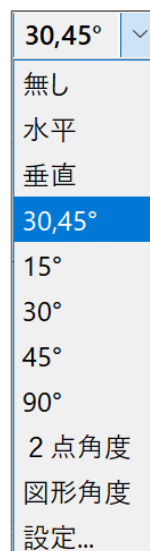
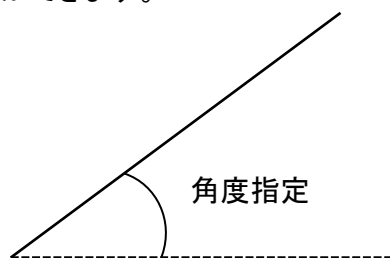
◆図形をスナップする

初期設定では、図形の端点や交点等をクリックするだけで正確に取得することができます。



◆角度を指定する  
[ホールド角度]

クリックするだけで、ホールドの有効/無効が簡単に切替えができます。



## 2-3. 編集機能

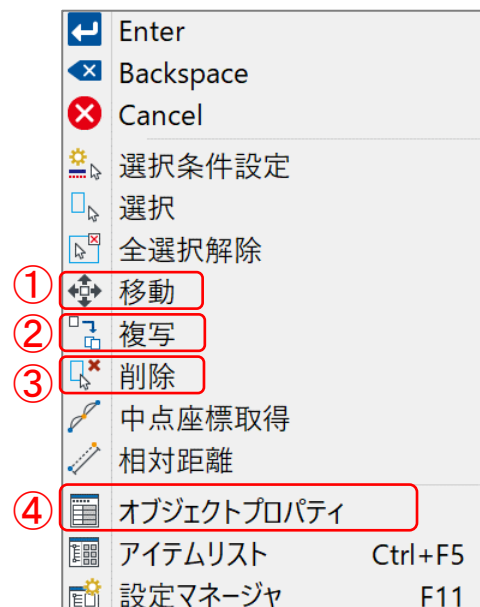
右クリックから基本的な編集機能が選択できます。

〈1〉図形を移動する [移動]

〈2〉図形を複写する [複写]

〈3〉図形を削除する [削除]

〈4〉図形の情報を確認・編集する [オブジェクトプロパティ]   
色や線種などの各種属性を自由に設定することができます。



### 3. 設定マネージャ

Linxの作図に必要な設定は、全て設定マネージャから行います。  
右クリックメニュー「設定マネージャ」から起動します。

#### ▼ [ユーザー]

個人ごとの環境(プロファイル)を設定できます。Tfasにおける「環境設定」です。



#### ▼ [ドキュメント]

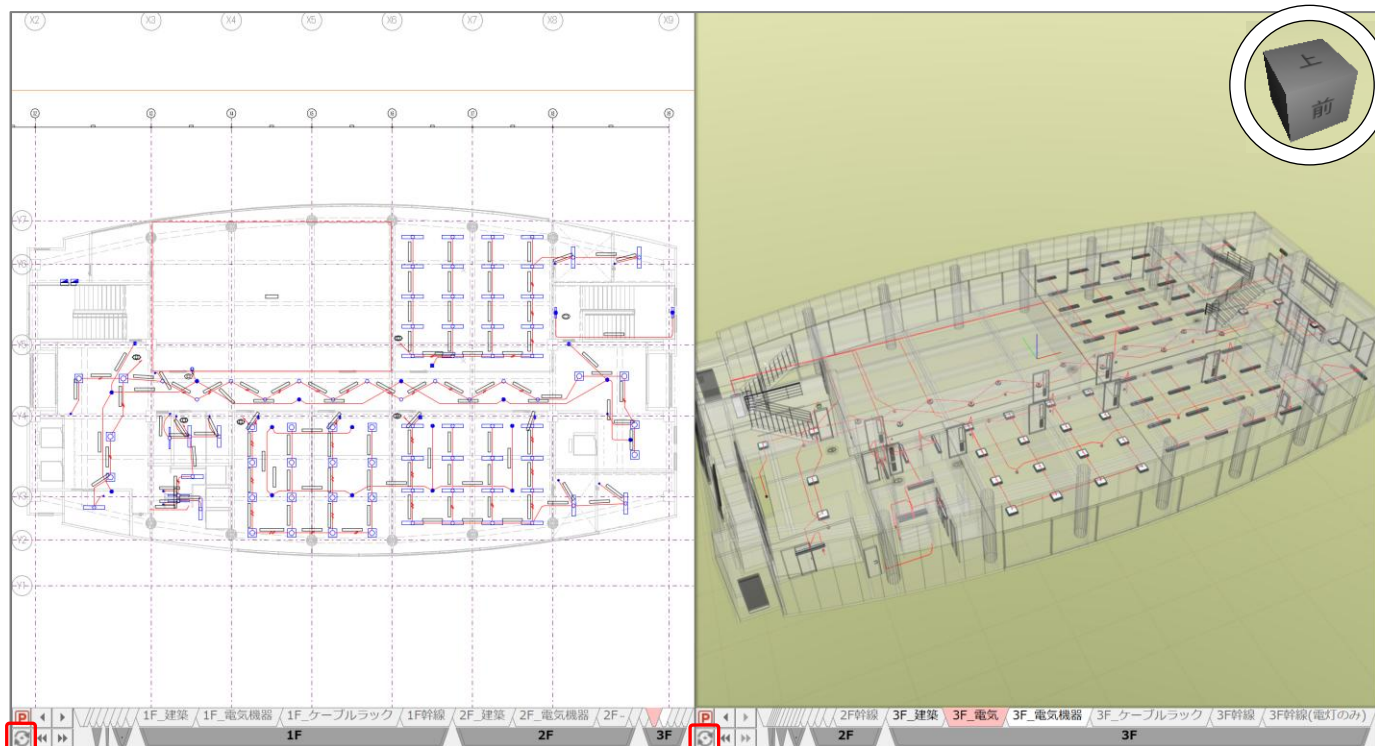
図面ごとの環境を設定することができます。Tfasにおける「作図設定」です。



## 4. 3D展開



図面を開き、3D展開しましょう。

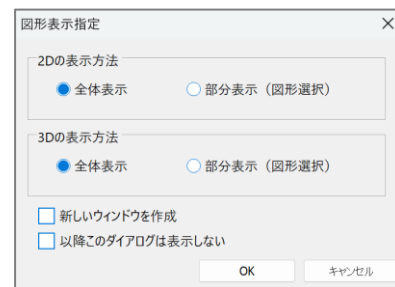


### 〈1〉 ツールバー[平面+3D]

「全体表示」にチェックを入れて、<OK>をクリックします。

#### 【3Dの画面操作方法】

- ・回り込み 左ドラッグorオービットツール
- ・拡大縮小 ホイール



### 〈2〉 2D/3Dウィンドウ連動

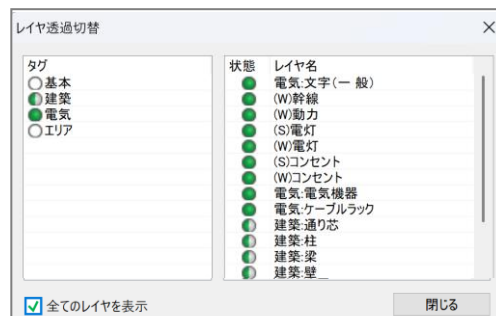
2D図面と3D図面を連動して同じ場所を表示できます。

ツールバー[表示位置合わせ] でも2D/3Dの位置合わせが可能です。

### 〈3〉 ツールバー[3Dレイヤ表示設定]

3Dの表示をレイヤごとに実体表示/半透明表示/透明表示に切り替えられます。

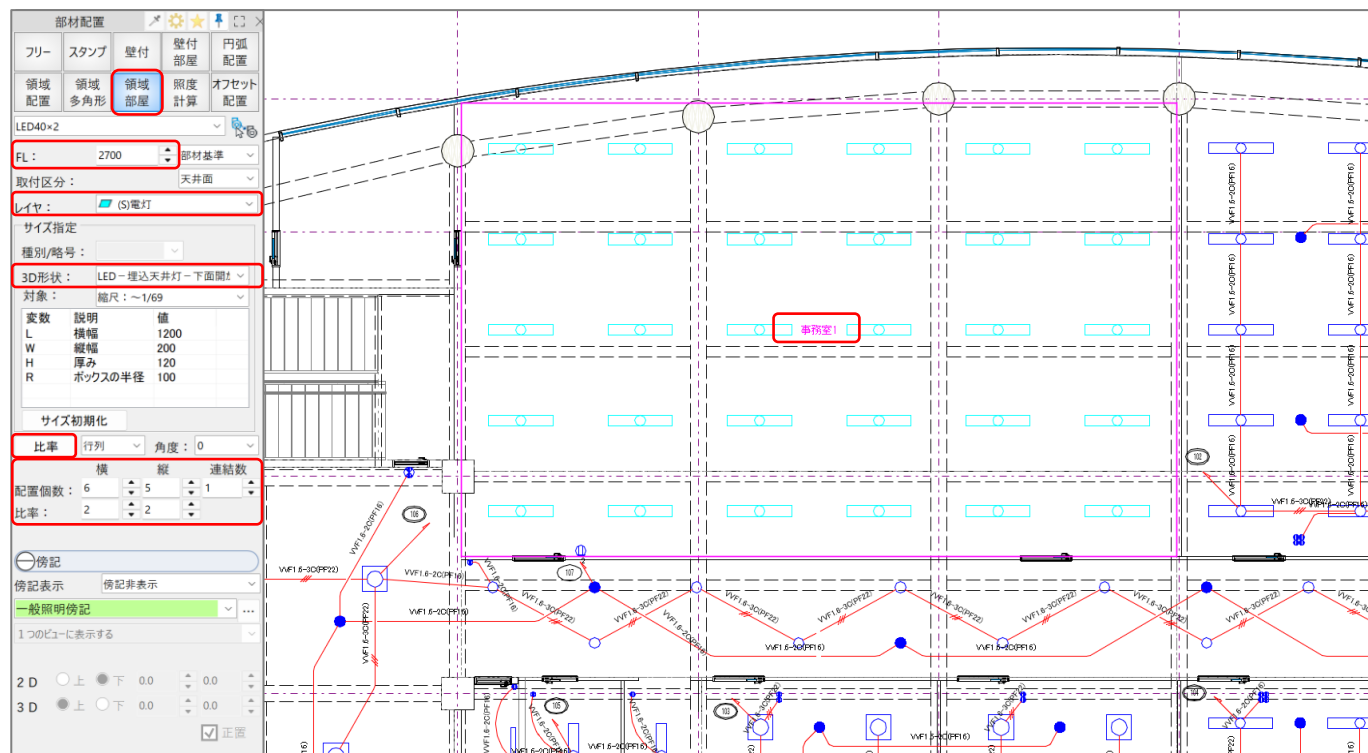
- 実体表示
- 半透明表示
- 非表示



## 5-1. 照明器具配置

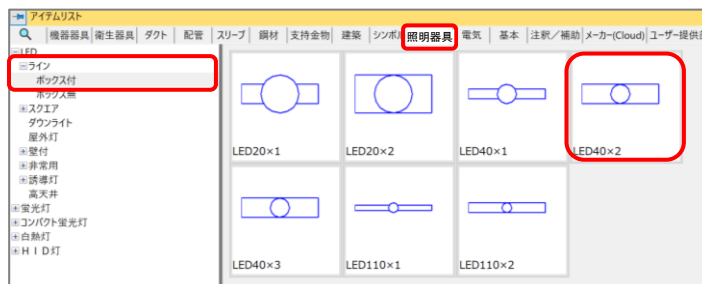


部屋図形を利用して照明器具を配置しましょう。



### 〈1〉 ツールバー[アイテムリスト]

- ① [照明器具]-[LED]-[ライン]-[ボックス付]-[LED40×2]を選択します。
- ② コマンドプロパティウィンドウで「領域部屋」を選択します。
- ③ 図面内の「事務室1」の文字を選択します。
- ④ コマンドプロパティウィンドウで右記のように設定します。
- ⑤ <Enter>し、LEDを配置します。

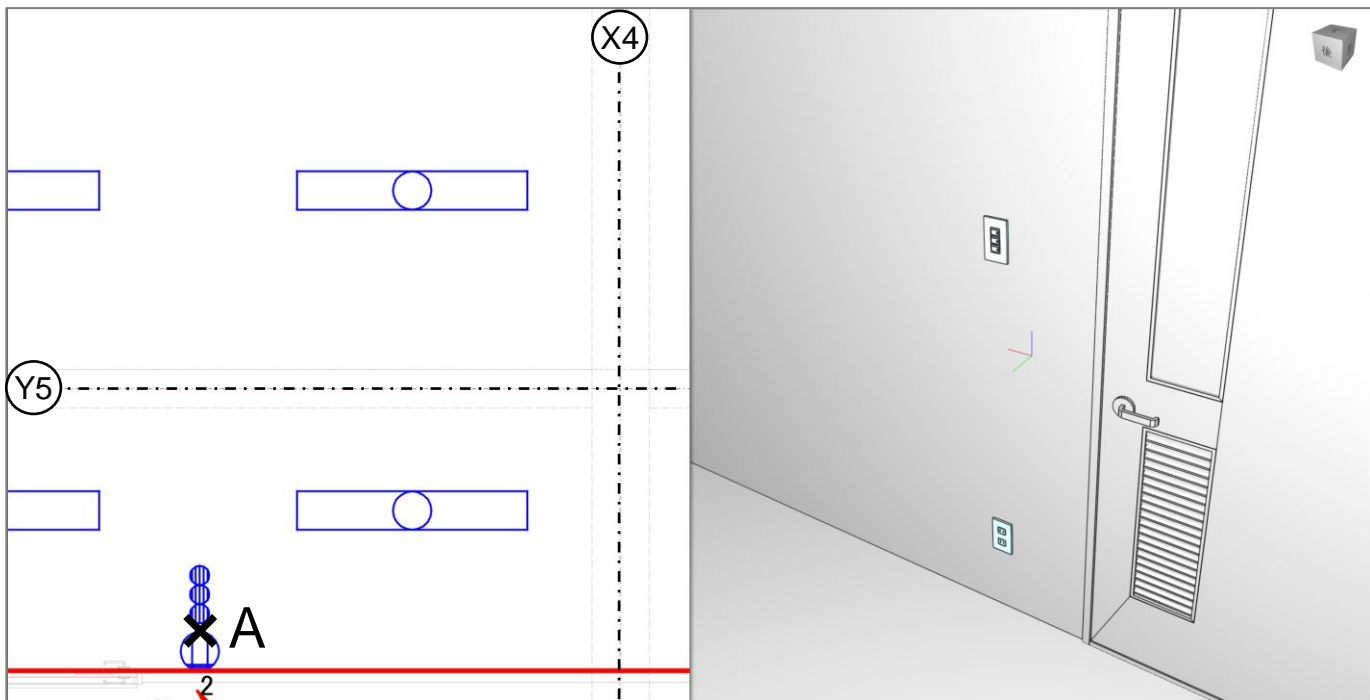


FL :2700  
 レイヤ :(S)電灯  
 3D形状 :[LED]-  
           [埋込天井灯]-  
           [下面開放(LRS7)]  
 配置方法 :領域部屋 比率  
 配置個数 :横6 縦5 連結数1  
 比率 :横2 縦2



## 5-2. スイッチ配置

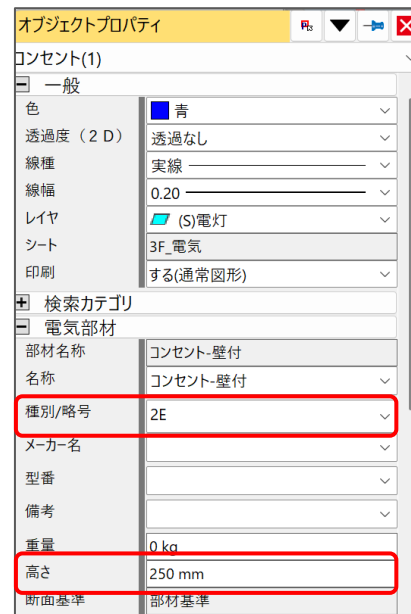
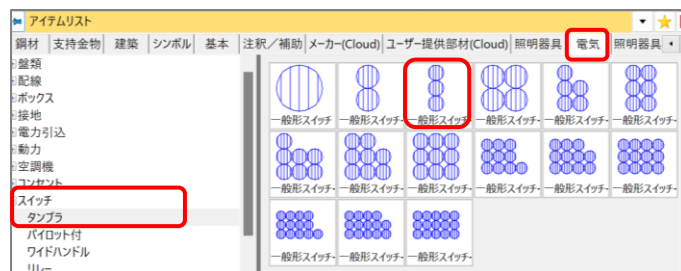


スイッチを配置し、オブジェクトプロパティで情報を編集しましょう。



### 〈1〉 ツールバー[アイテムリスト]

- ① 「電気」-「スイッチ」-「タンブラ」-「一般形スイッチ-3個」を選択します。
- ② コンセントの外形線の頂点Aをクリックします。
- ③ ホールドを「30,45°」に設定し、仮表示が垂直方向上側に出ている状態でクリックします。
- ④ ツールバー[平面+3D]  を選択します。
- ⑤ ツールバー [表示位置合わせ]  を選択し、コンセントをクリックします。
- ⑥ オービットツール「後」を選択します。
- ⑦ 右クリックメニュー[オブジェクトプロパティ] 3Dビューでコンセントを選択し、以下のように設定します。

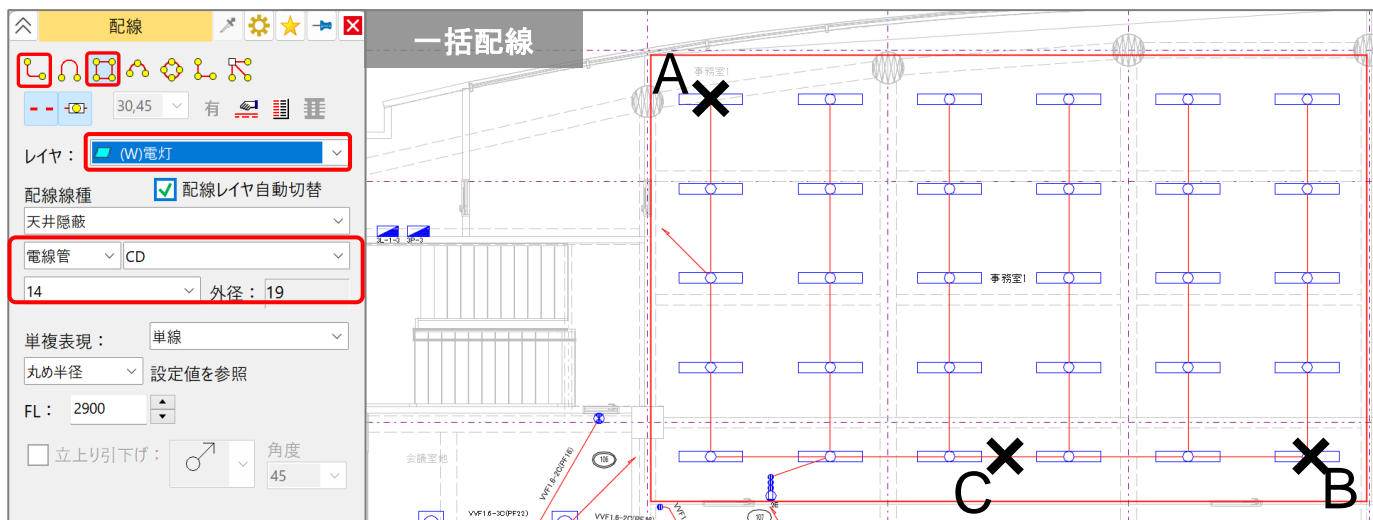


種別/略号: 2E  
高さ: 250

## 6-1. 配線作図



作図したLEDに配線を作図しましょう。

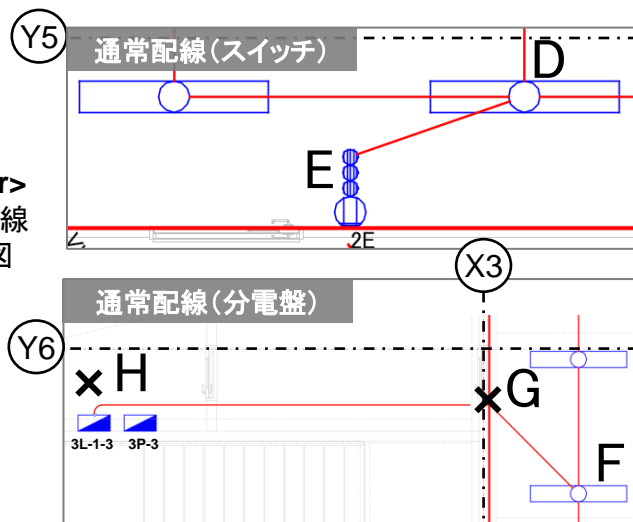


### 〈1〉 ツールバー[配線作図]

- ① コマンドプロパティウィンドウで以下のように設定します。

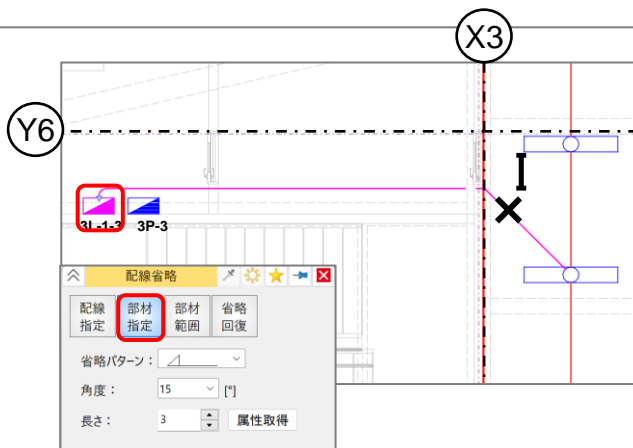
レイヤ	: (W)電灯
配線線種	: 電線管 CD 14

- ② **一括配線 (対角)** 上図LED(A-B)をクリック後、<Enter>し、コマンドプロパティウィンドウで配線パターンを縦に設定、渡り配線を作図する位置(C)でクリックします。
- ③ **通常配線** LED(D) とスイッチ (E) をクリック後 <Enter>します。  
LED(F)をクリック後、分電盤に向かう途中(G)、(H)、分電盤でそれぞれクリックして<Enter>します。



### 〈2〉 ツールバー[配線省略]

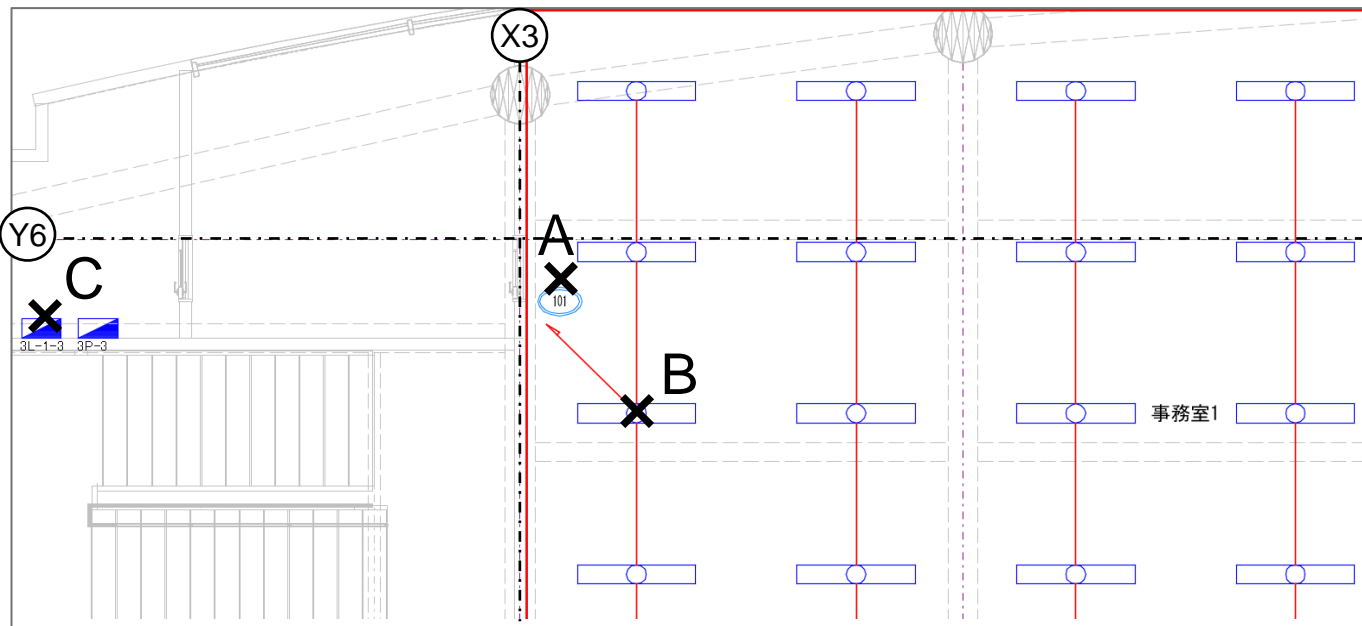
- ① コマンドプロパティウィンドウから [部材指定] を選択します。
- ② 対象部材として配線を行った分電盤を選択します。
- ③ 省略点として点Iをクリックして<Enter>します。



## 6-2. 回路番号作図、負荷容量付加



回路番号を作図し、LEDに負荷容量を付加しましょう。



### 〈1〉 ツールバー [回路番号]

① コマンドプロパティウィンドウで以下のように設定します。

サブコマンド : 作図  
電気部材と連動する : チェック有  
形状 : 二重楕円  
回路文字 : 101

② 上図Aの位置をクリックします。

③ BのLEDを選択し、接続されている部材が選択状態になったのを確認して<Enter>します。

④ Cの分電盤を指定して回路情報を付加します。



### 〈2〉 ツールバー [負荷容量]

① 事務室1の照明器具を対角ですべて選択し、<Enter>します。

② 負荷容量に「26」と入力し、<OK>します。

負荷容量				
部材名称	姿図符号	個数	負荷容量	単位
LED40×2		30	26	VA

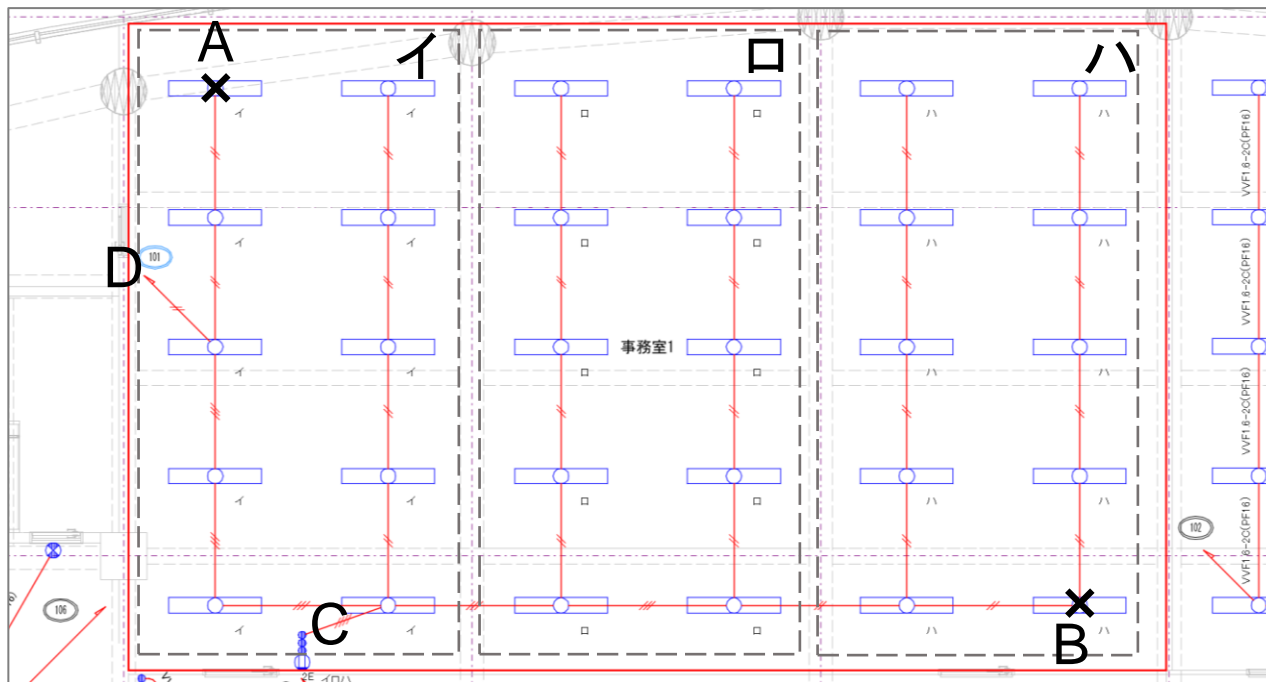
#### POINT

➤ 負荷容量は後で集計したり、盤リストの作成に活用することが可能です。

## 6-3. 点減区分、条数付加



点減区分を付加し、条数を自動で表示しましょう。



### 〈1〉 ツールバー [点減区分]

① コマンドプロパティウィンドウで「自動付加」を選択します。

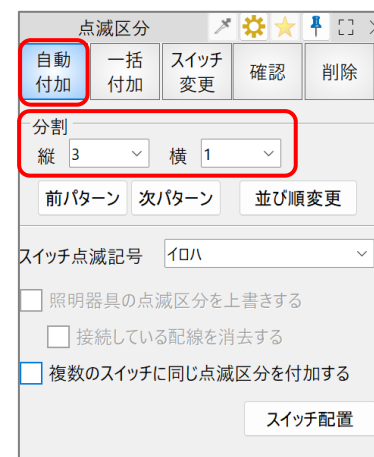
② 対角A-Bの部品を選択し、コマンドプロパティウィンドウから以下のように設定します。

分割数 縦:3 横:1

③ オフセット配置したスイッチCを選択します。

#### POINT

➤ 分割パターンを変更することで付加する点減区分のシミュレーションが可能です。



### 〈2〉 ツールバー [条数・配線記号]

① コマンドプロパティウィンドウで「自動付加」を選択します。

② コマンドプロパティウィンドウから以下のように設定し、配線省略端Dをクリックします。

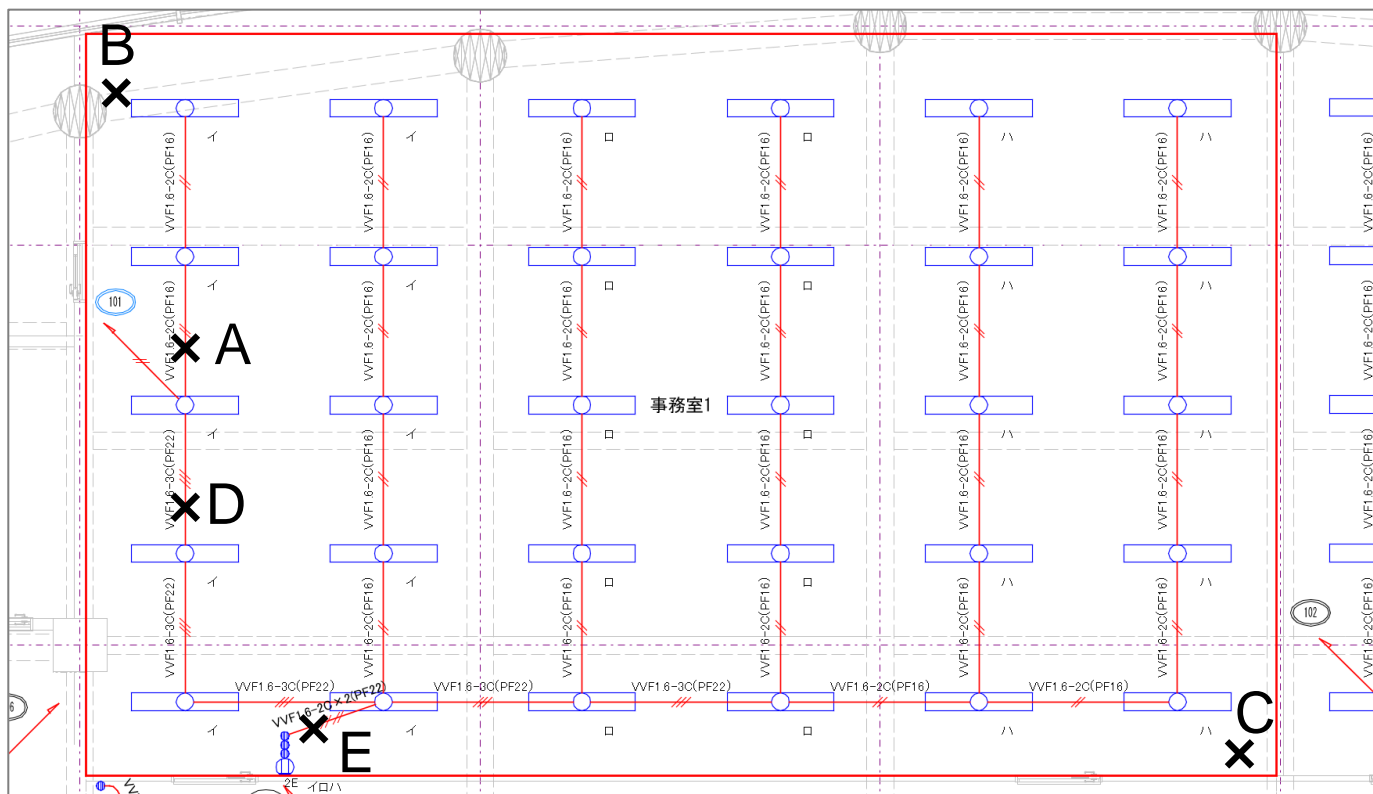
条数表示 : 2本=表示  
アース付加 : チェック無  
条数分割する: チェック無




## 6-4. 配線一括変更



配線パレットを使用して配線の種類を変更し、傍記情報を付加しましょう。



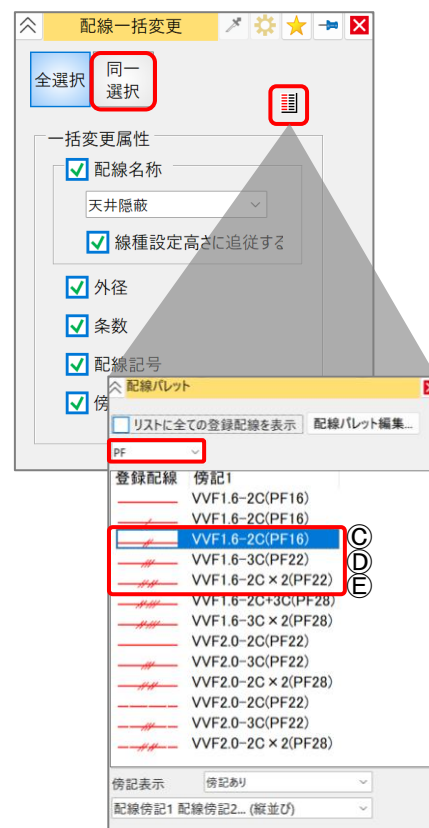
### 〈1〉 ツールバー「配線一括変更」

- ① コマンドプロパティウィンドウで「同一選択」を選択します。
- ② 基準となるAの配線を選択後、対角B-Cの範囲を選択し、<Enter>します。
- ③ 配線パレット  をクリックして展開し、以下のように設定して<Enter>します。

配線種類	: PF
Cの配線	: VVF1.6-2C(PF16)

- ④ ②～③と同じ手順で以下の配線も変更します。

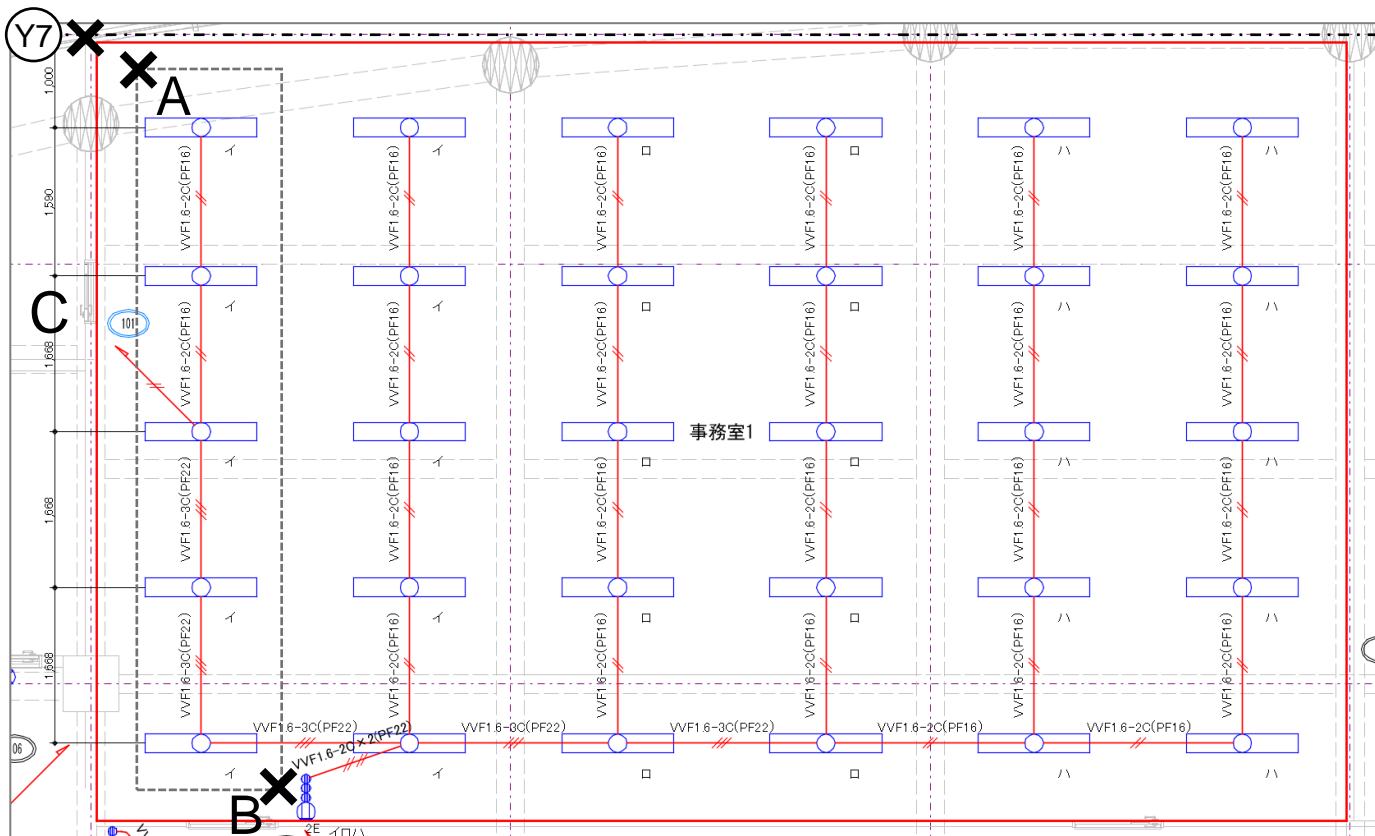
Dの配線	: VVF1.6-3C(PF22)
Eの配線	: VVF1.6-2C x 2(PF22)



## 7-1. 寸法線作成



部品間に寸法線を作図しましょう。



### 〈1〉 ツールバー [寸法線-図形間寸法線]

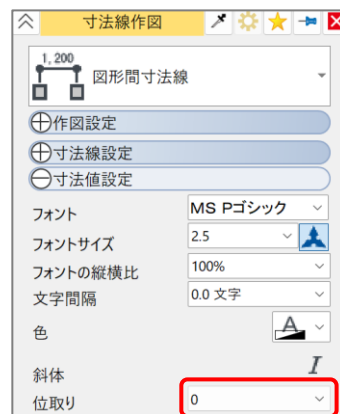
① 以下のように設定します。

位取り : 0

② 対角A-Bの部品を選択し、<Enter>します。

③ 寸法を追加したい箇所としてY7の通り芯をクリックして選択し、<Enter>します。

④ 通過点Cをクリックして寸法線を配置します。

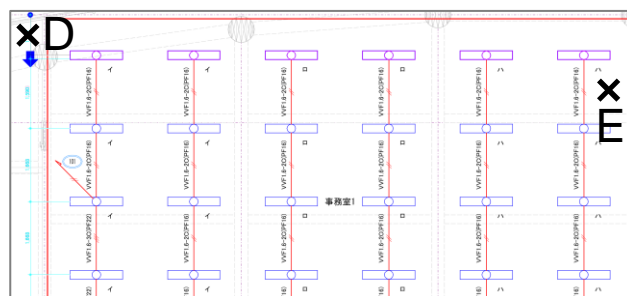


### 〈2〉 ツールバー [文字・引出線編集]

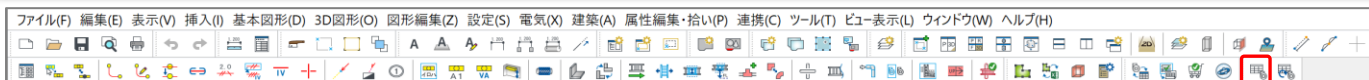
① 変更する寸法値Dをクリックします。

② 変更後の寸法値をキーボードより「1000」と入力し、<Enter>します。

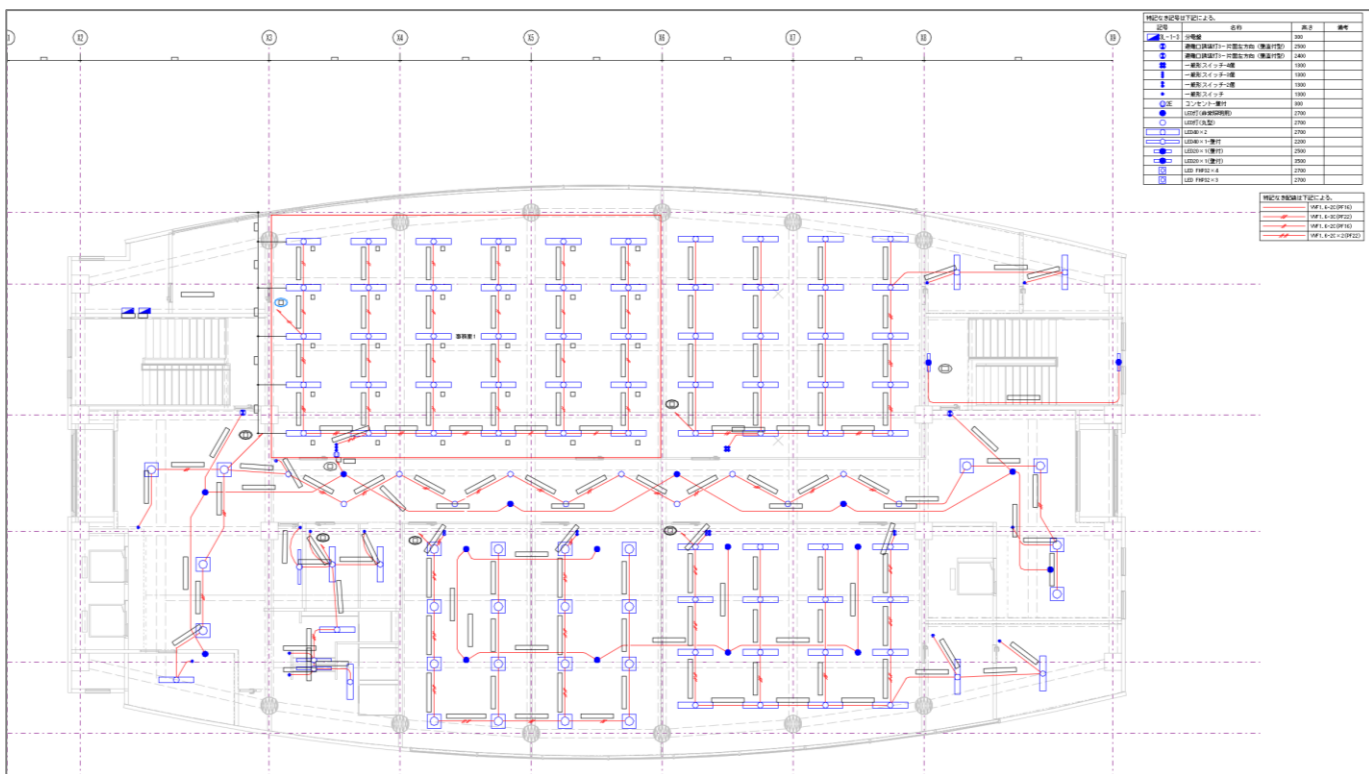
③ 移動方向Eでカーソルをクリックすると、横並びの部品を全て移動することができます。



## 7-2. シンボル表、配線注記表



モデルからシンボル表と配線注記表を作成しましょう。



### 〈1〉 ツールバー [表-作成]

#### ◆ 電気シンボル表

- ① コマンドプロパティウィンドウで「対象:電気シンボル表」を選択します。
- ② 図面全体を選択し、<Enter>します。
- ③ 配置したい位置でクリックします。
- ④ 「名称」の列のセルをクリックし、コマンドプロパティウィンドウで<最適幅>をクリック後、<Enter>します。

特記なき記号は下記による。

記号	名称	高さ	備考
3L-1-3	分電盤	300	
⊗	避難口誘導灯3-片面左方向(壁直付型)	2500	
⊗	避難口誘導灯3-片面左方向(壁直付型)	2400	
⊗	一般形スイッチ-4個	1300	
⊗	一般形スイッチ-3個	1300	
⊗	一般形スイッチ-2個	1300	
⊗	一般形スイッチ	1300	
⊗	コンセント-壁付	300	
⊗	LED灯(非常照明用)	2700	
⊗	LED灯(丸型)	2700	
⊗	LED40×2	2700	
⊗	LED40×1-壁付	2200	
⊗	LED20×1(壁付)	3500	
⊗	LED20×1(壁付)	2500	
⊗	LED FHP32×4	2700	
⊗	LED FHP32×3	2700	

#### ◆ 配線注記表

- ① 再度ツールバー[表-作成] を選択します。
- ② コマンドプロパティウィンドウで「対象:配線注記表」を選択します。
- ③ 図面全体を選択し、<Enter>します。
- ④ 配置したい位置でクリックします。
- ⑤ 配線傍記の列のセルをクリックし、コマンドプロパティウィンドウで<最適幅>をクリック後、<Enter>します。

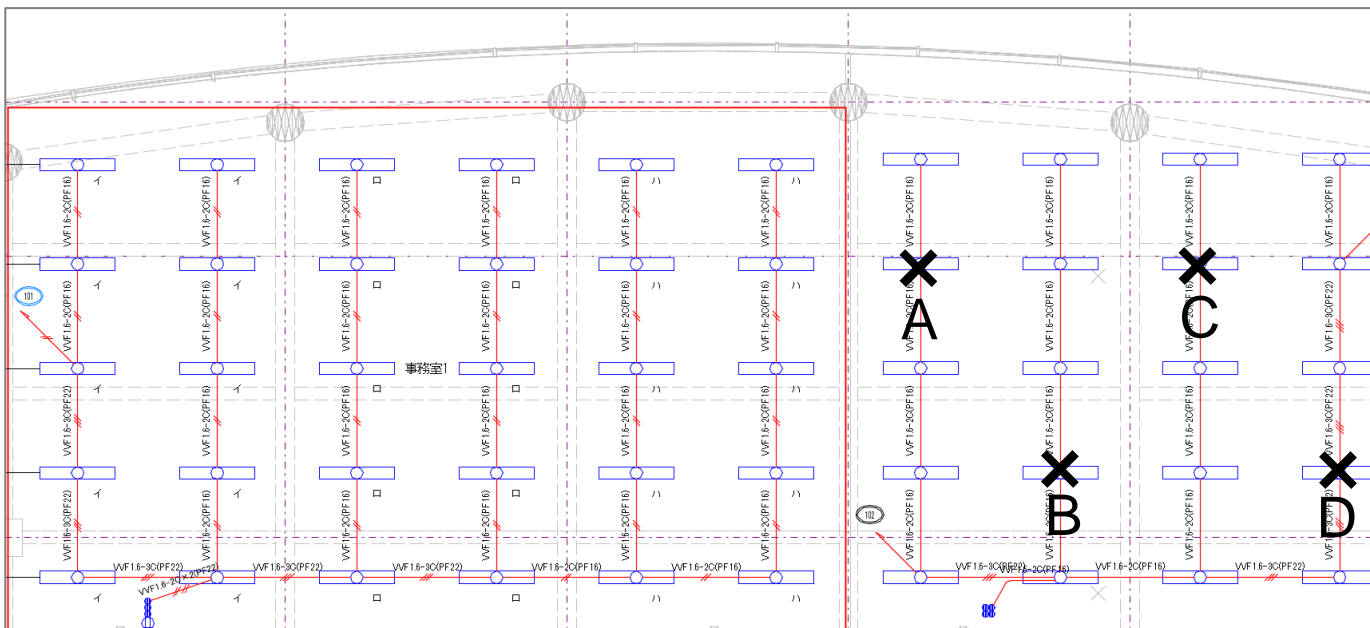
特記なき配線は下記による。

—	VVF1. 6-2C (PF16)
— // —	VVF1. 6-2C × 2 (PF22)
— // —	VVF1. 6-3C (PF22)
— // —	VVF1. 6-2C (PF16)

## 7-3. 表更新



モデルに変更があった場合の表更新を見てみましょう。



### 〈1〉 ツールバー [部材入替]

① LED(A-D)を4つ選択し、<Enter>します。

②再度<Enter>し、アイテムリストより  
[照明器具]-[LED]-[非常用]-[標準]  
-[LED40×2-非常用照明]を選択します。



### 〈2〉 ツールバー [表-確認・更新]

- ① 作成したシンボル表を選択し、<Enter>します。
- ② 同じ位置に配置しますので再度<Enter>します。
- ③ 最後にもう一度<Enter>し、更新完了となります。

POINT


➤ 表更新を行うことで最新のモデルの状態を反映できます。


特記なき記号は下記による。			
記号	名称	高さ	備考
3L-1-3	分電盤	300	
⊗	避難口誘導灯3-片面左方向(壁直付型)	2500	
⊗	避難口誘導灯3-片面左方向(壁直付型)	2400	
⊗	一般形スイッチ-4個	1300	
⊗	一般形スイッチ-3個	1300	
⊗	一般形スイッチ-2個	1300	
⊗	一般形スイッチ	1300	
⊗	コンセント-壁付	300	
⊗	LED灯(非常照明用)	2700	
⊗	LED灯(丸型)	2700	
⊗	LED40×2-非常用照明	2700	
⊗	LED40×2	2700	
⊗	LED40×1-壁付	2200	
⊗	LED20×1(壁付)	2500	
⊗	LED20×1(壁付)	3500	
⊗	LED FHP32×4	2700	
⊗	LED FHP32×3	2700	

## 8-1. ラック作図①



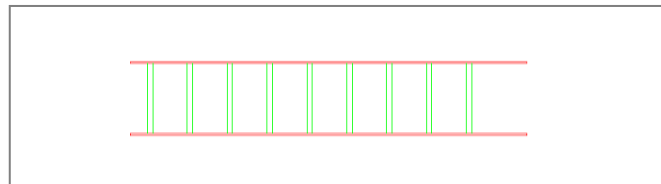
用紙枠外でラック作図の練習をしてみましょう。

シートパターン  [ケーブルラック]を選択します。

〈1〉 ツールバー[ルーティング] 

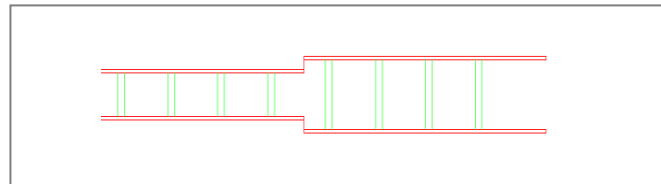
### ① ラック作図

平面上でクリックするとケーブルラックが仮表示され、通過点をクリックすると仮でケーブルラックが作図されます。〈Enter〉で作図を完了します。



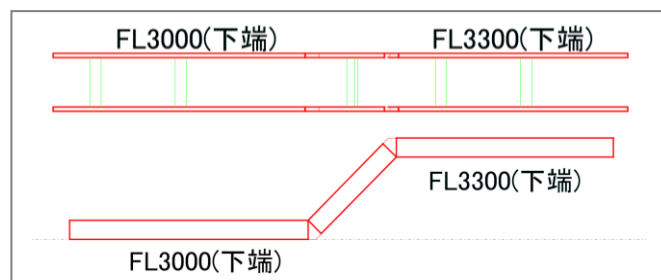
### ② サイズ変更

通過点をクリック後、コマンドプロパティウィンドウよりサイズを設定すると、サイズを変更して作図できます。



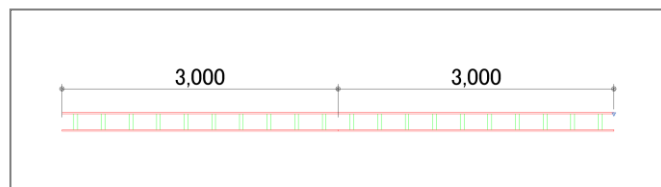
### ③ レベル変更

通過点をクリック後、コマンドプロパティウィンドウよりレベルを設定すると、立ち上下がりが発生します。



### ④ 定尺分割

コマンドプロパティウィンドウで「定尺分割」にチェックを入れ、定尺長を入力すると分割して作図できます。



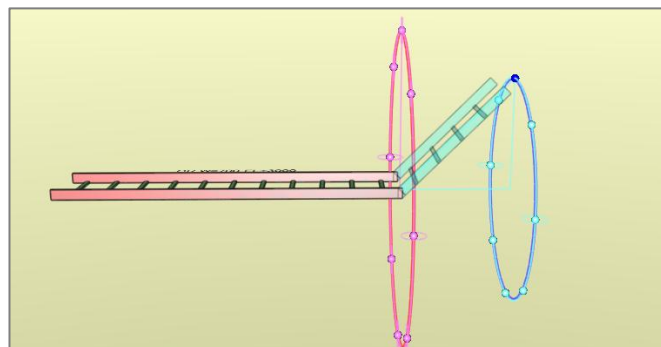
### ⑤ 立管を作図

コマンドプロパティウィンドウで「立管を作図」にチェックを入れると階を基準にFLを設定し、縦のラックが作図できます。



### ⑥ 3Dルーティング

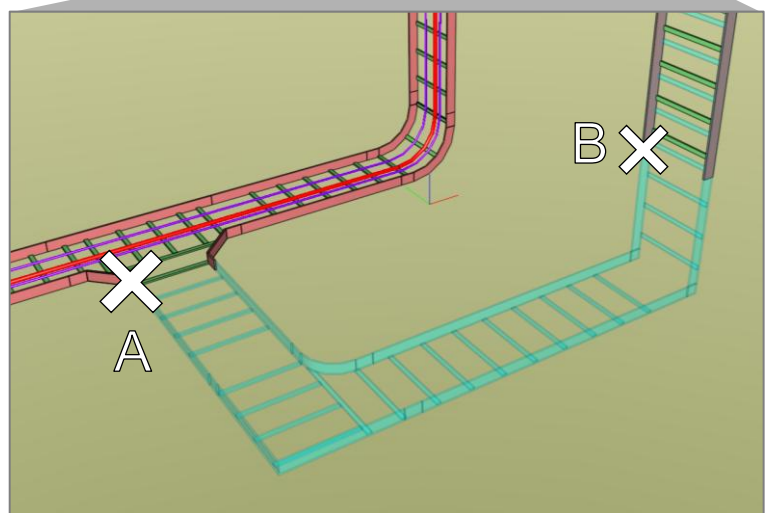
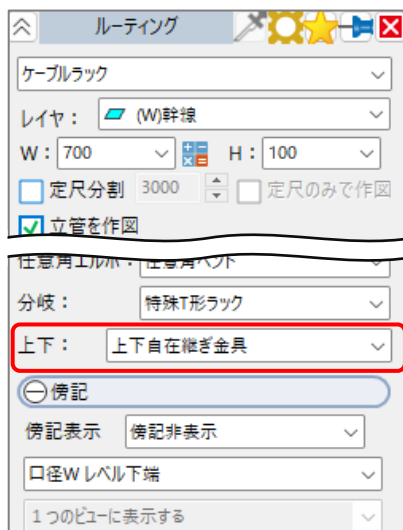
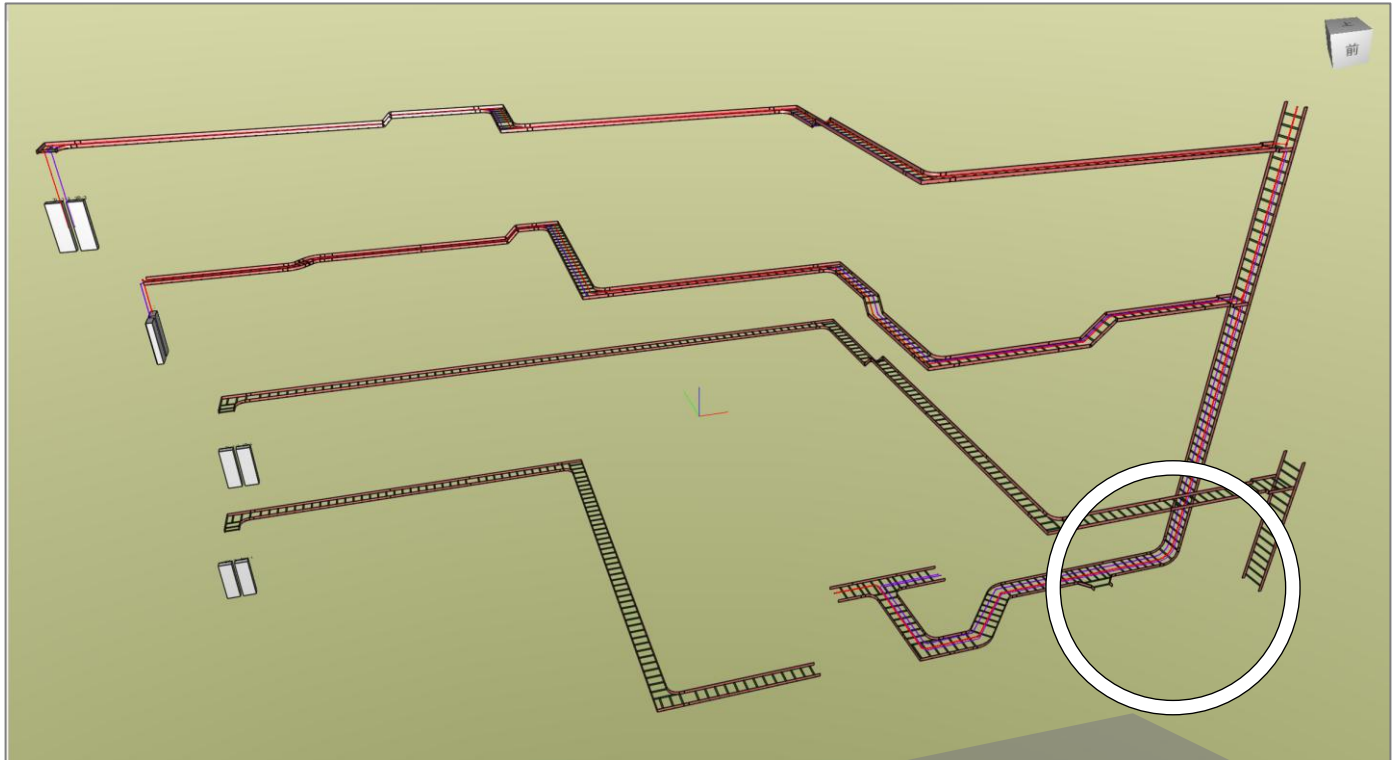
2Dビューで開始点をクリック後、3Dビューに切り替えると連動した状態で作図できます。赤と青のガイドリングでは角度を固定して作図することが可能です。



## 8-2. ラック作図②



各フロアのラックと接続しましょう。



### 〈1〉 ツールバー[ルーティング]



- ① 3Dビュー上で右上図のラックの端点A,Bをクリックして接続します。
- ② コマンドプロパティウィンドウで上下の継手を[上下自在継ぎ金具]に変更して<Enter>します。

## 8-3. ラックケーブル作図

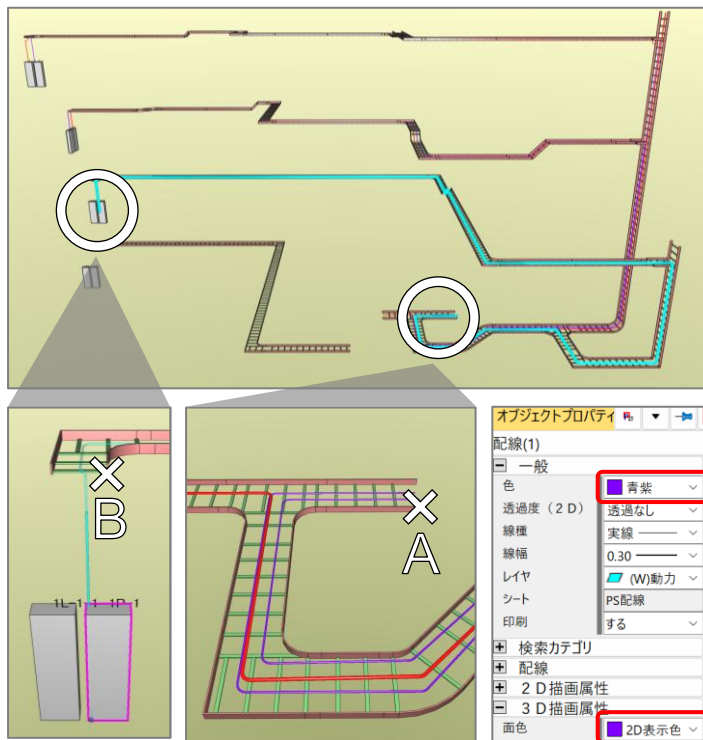


ケーブルラック上に配線を作図しましょう。

### 〈1〉 ツールバー[配線作図]

- ① コマンドプロパティウィンドウで以下のように設定します。

配線方法	: 通常配線
配線作図補正角度	: 30,45
配線補正モード	: 補正あり <input checked="" type="checkbox"/> 有
ラック配線自動整列	: あり <input checked="" type="checkbox"/>
レイヤ	: (W)動力
配線線種	: [ケーブル] - [CVT] - [22.0mm <sup>2</sup> ]
幹線番号	: <input checked="" type="checkbox"/> [P-1]



- ② 3Dビューでラックの端点Aをクリックします。
- ③ 3Dビューで1Fのラック端点Bをクリックし、続けて分電盤(1P-1)の上面をクリックして、<Enter>で接続します。

- ④ 右クリックメニュー[オブジェクトプロパティ]  
③で作図したケーブルを選択し、以下のように設定します。

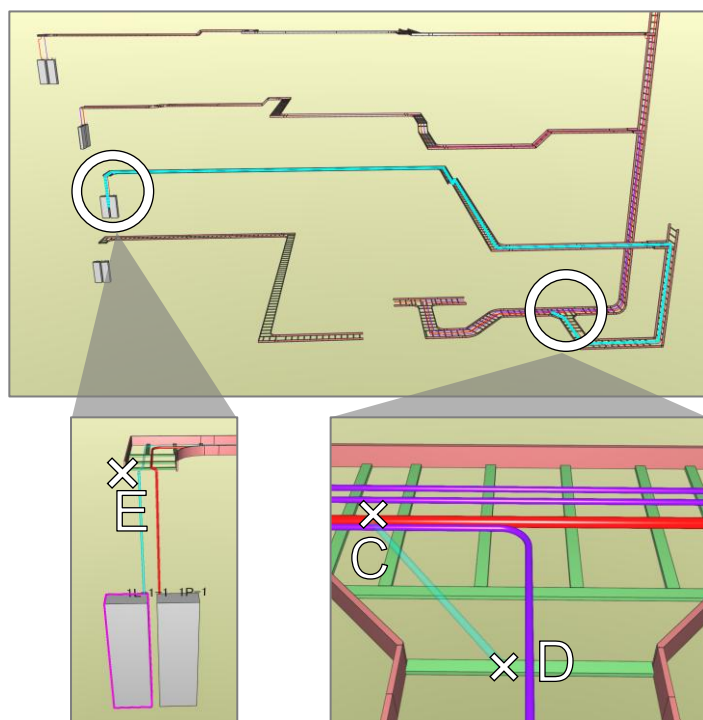
一般 - 色	: 青紫
3D描画属性 - 面色	: 2D表示色

- ⑤ 続いて、電灯用ケーブルを作図します。  
3Dビューで右図を参考にC(赤いケーブル)、D(ケーブルラックの子桁)の順にクリックします。

- ⑥ コマンドプロパティウィンドウで以下のように設定します。

レイヤ	: (W)電灯
幹線番号	: <input checked="" type="checkbox"/> [L-1-1]

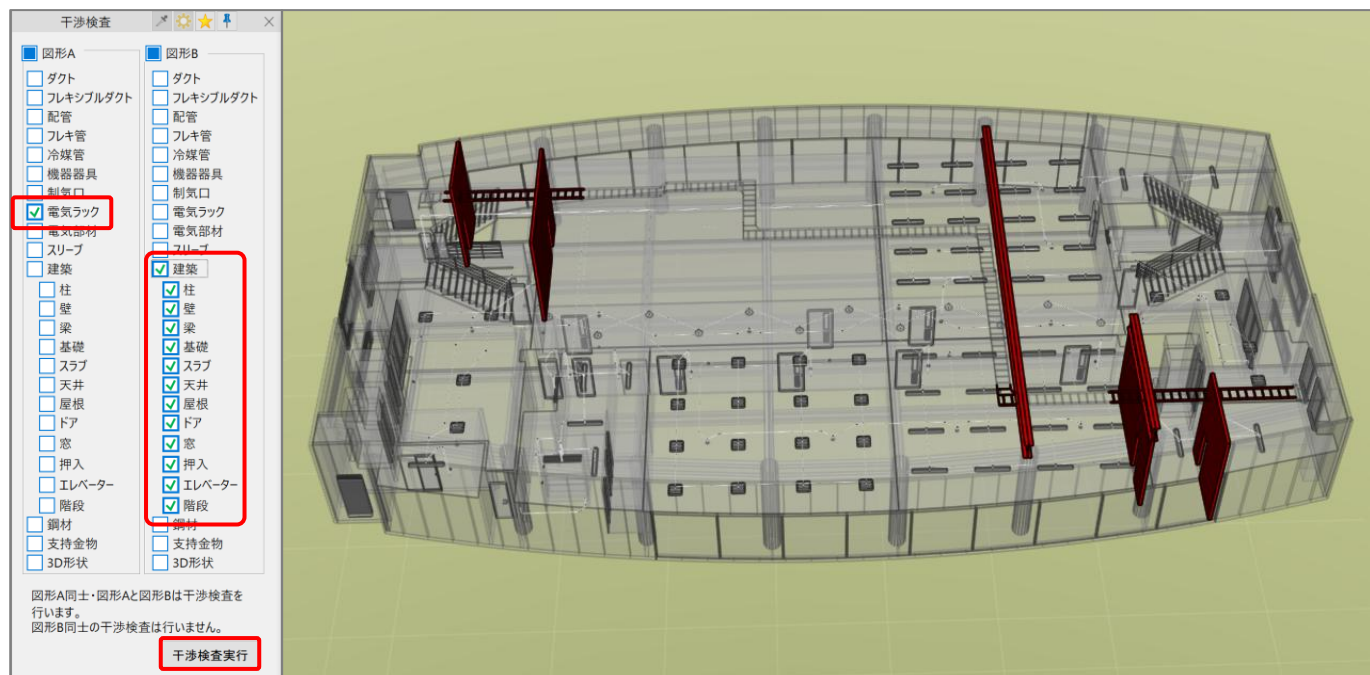
- ⑦ 3Dビューで1Fのラック端点Eをクリックし、続けて分電盤(1L-1-1)の上面をクリックして、<Enter>で接続します。



## 9-1. 干渉検査



干渉検査をおこない干渉箇所の一覧をExcelに出力しましょう。



### 〈1〉 ツールバー[干渉検査]

① シートパターン  [干渉検査]を選択します。

② 以下の項目にチェックを入れ、  
＜干渉検査実行＞をクリックします。

図形A: 電気ラック

図形B: 建築

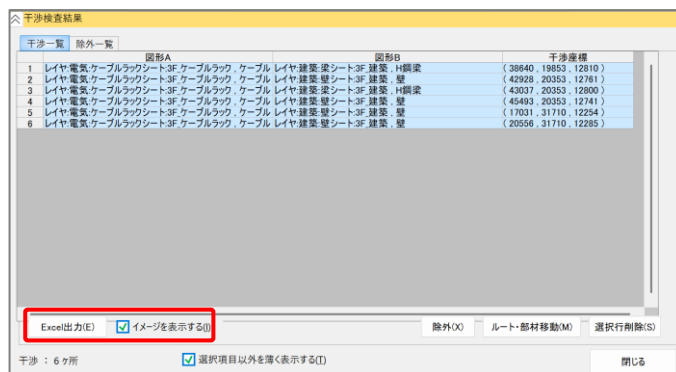
③ 「イメージを表示する」にチェックを入れ、  
＜Excel出力＞をクリックします。

※「選択項目以外を薄く表示する」

にチェックを入れると干渉箇所を確認  
しやすくなります。

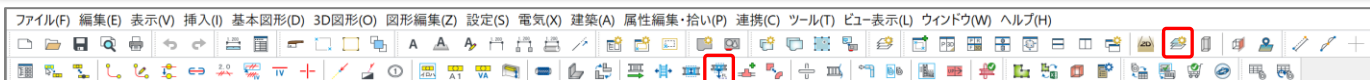
④ Excel上で「No.1」の干渉イメージをクリック  
して、Linuxに画面を切り替えます。

⑤ 干渉チェックを<Enter>で終了します。

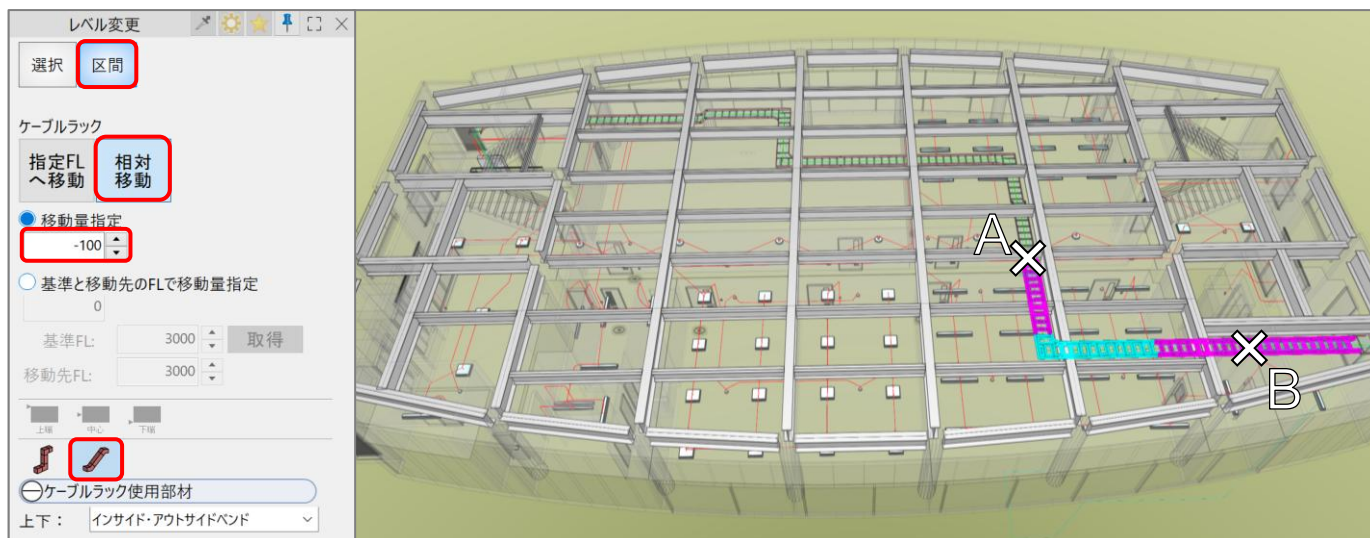


Excel					
No	イメージ	図形A (レイヤシート用途名称/サイズ)	図形B (レイヤシート用途名称/サイズ)	干渉座標	備考
1		電気ケーブルラック3F. ケーブルラック. ケーブルラック 外直角L型分岐(内径)	建築. 梁. 3F. 建築. H鋼梁.	(38640, 19853, 12810)	
2		電気ケーブルラック3F. ケーブルラック. ケーブルラック 直線.	建築. 梁. 3F. 建築. 壁.	(42928, 20353, 12761)	
3		電気ケーブルラック3F. ケーブルラック. ケーブルラック 直線.	建築. 梁. 3F. 建築. H鋼梁.	(43037, 20353, 12800)	
4		電気ケーブルラック3F. ケーブルラック. ケーブルラック 直線.	建築. 梁. 3F. 建築. 壁.	(45493, 20353, 12741)	
5		電気ケーブルラック3F. ケーブルラック. ケーブルラック 直線.	建築. 梁. 3F. 建築. 壁.	(17031, 31710, 12254)	
6		電気ケーブルラック3F. ケーブルラック. ケーブルラック 直線.	建築. 梁. 3F. 建築. 壁.	(20556, 31710, 12285)	

## 9-2. ラック編集(FL変更)

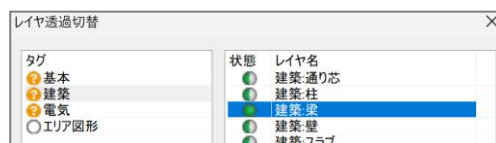


梁との干渉を回避するために3Dビューでラックを編集しましょう。



### 〈1〉 ツールバー[レベル変更 - 区間]

- ① ツールバー[3Dレイヤ表示設定]   
 「建築:梁」を実体表示 に切り替えます。
- ② 3Dビューで、移動する区間の点A、点Bをクリックします。
- ③ コマンドプロパティウィンドウで右記のように設定し、  
<Enter>して干渉を回避します。



サブコマンド: 区間  
移動方法 : 相対移動  
移動量 : -100  
立ち上がり: 45° 返し

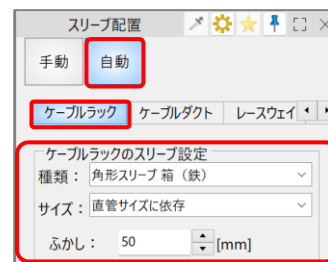
## 9-3. スリーブの自動配置



続けて壁との干渉を回避するためにスリーブを自動配置しましょう。

### 〈1〉 ツールバー[スリーブ配置]

- ① コマンドプロパティウィンドウで右のように設定します。
- ② <Enter>するとラックにスリーブが自動配置されます。



#### POINT

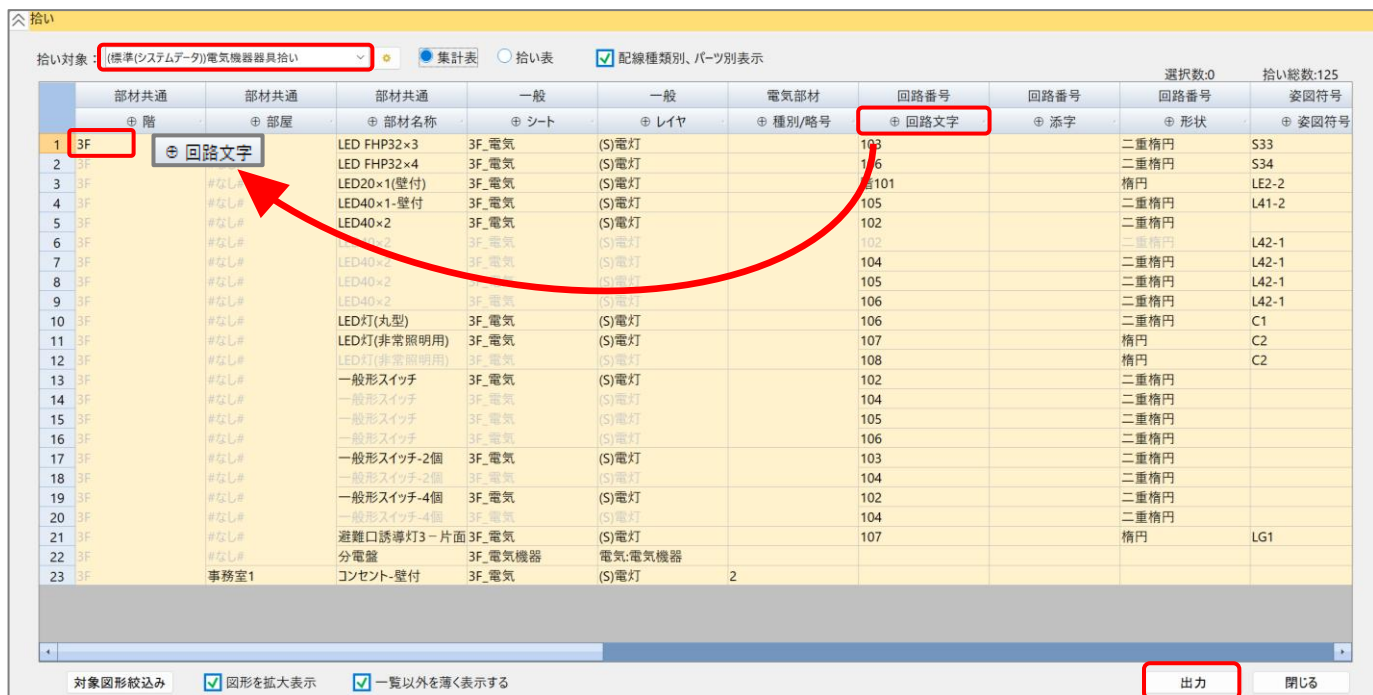
- 再度干渉検査を行うと、全ての干渉が回避されていることが確認できます。

サブコマンド: 自動  
対象部材 : ケーブルラック  
種類 : 角形スリーブ箱 (鉄)  
サイズ : 直管サイズに依存  
ふかし : 50mm

## 10. 数量拾い



拾いを行い、Excelに出力しましょう。



### 〈1〉 ツールバー[拾い]

- ① 「拾い対象」を「標準(システムデータ)電気機器器具拾い」に切り替えます。

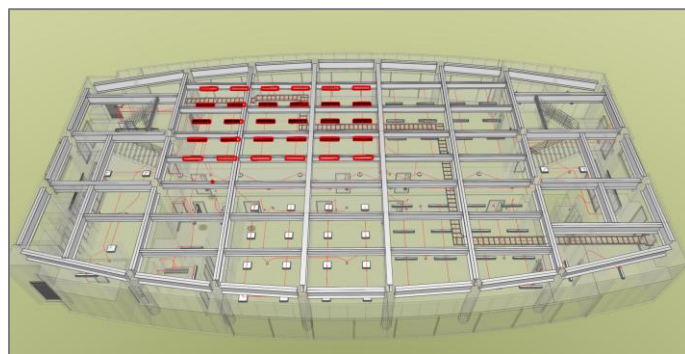
※ほかにも標準で以下の拾い種別があります。

- ・標準(システムデータ)電気配線類拾い
- ・標準(システムデータ)電気ラック類拾い

※電気配線類拾いで「配線種類別、パーツ別表示」にチェックを入れると、配線・配管を別々に拾うことができます。

※拾い表と集計表の切り替えが容易です。

- ② 「回路番号-回路文字」の項目を<ドラッグ & ドロップ>して左から2番目まで移動すると集計順が切り替わります。
- ③ 「回路番号-回路文字」列の「101」をダブルクリックすると、回路番号101に紐づいた図形がモデル上で赤く表示されます。
- ④ 「階」列の「3F」をダブルクリックした後、<出力>を選択すると、Excel出力されます。




部材共通	回路番号	部材共通	部材共通	一般	一般	電気部材	回路番号	回路番号	変換符号
①階	②回路文字	③部屋	④部材名称	⑤シート	⑥レイヤ	⑦種類/略号	⑧添字	⑨形状	⑩変換符号
3F		#なし#	分電盤	3F_電気	(S)電灯	2E			
3F	101	事務室1	コンセント-壁付	3F_電気	(S)電灯			二重積円	
3F	101	事務室1	LED40×2	3F_電気	(S)電灯			二重積円	
3F	102	#なし#	一般形スイッチ-3個	3F_電気	(S)電灯			二重積円	L42-1
3F	102	#なし#	LED40×2	3F_電気	(S)電灯			二重積円	
3F	102	#なし#	LED40×2-非常用	3F_電気	(S)電灯			二重積円	
3F	102	#なし#	一般形スイッチ	3F_電気	(S)電灯			二重積円	
3F	102	#なし#	一般形スイッチ-4個	3F_電気	(S)電灯			二重積円	
3F	103	#なし#	LED FHP32×3	3F_電気	(S)電灯			二重積円	S33
3F	103	#なし#	一般形スイッチ-2個	3F_電気	(S)電灯			二重積円	
3F	104	#なし#	LED40×2	3F_電気	(S)電灯			二重積円	L42-1
3F	104	#なし#	一般形スイッチ	3F_電気	(S)電灯			二重積円	
3F	104	#なし#	一般形スイッチ-2個	3F_電気	(S)電灯			二重積円	
3F	104	#なし#	一般形スイッチ-4個	3F_電気	(S)電灯			二重積円	
3F	105	#なし#	LED40×1-壁付	3F_電気	(S)電灯			二重積円	L41-2
3F	105	#なし#	LED40×2	3F_電気	(S)電灯			二重積円	L42-1
3F	105	#なし#	一般形スイッチ	3F_電気	(S)電灯			二重積円	
3F	106	#なし#	LED FHP32×4	3F_電気	(S)電灯			二重積円	S34
3F	106	#なし#	LED40×2	3F_電気	(S)電灯			二重積円	L42-1



## 11. 3D PDF



Adobe Acrobatで閲覧可能な3D PDFを出力しましょう。



〈1〉 メニューバー[ファイル]－[名前を付けて保存(3D図形選択)]－[3D PDF出力] 

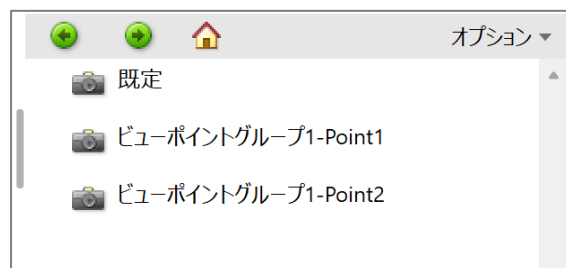
- ① 2Dビューで図面全体を選択し、<Enter>します。
- ② 出力したPDFを開き、<オプション>－<常にこの文書を信頼する>をクリックします。
- ③ PDF上で任意の箇所をクリックすると、3Dを確認できるようになります。
- ④ ツールの一番左のアイコン  を選択し、**スピン**  をクリックすると操作しやすいです。

### 【3D PDFの操作方法】

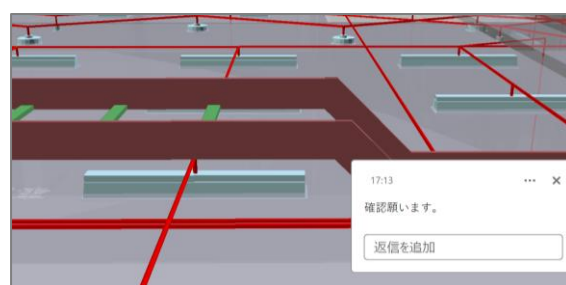
- ・左ドラッグ            回り込み
- ・Ctrl + 左ドラッグ    画面移動
- ・ホイール            拡大縮小

### 3D PDFの便利機能

ビューポイント機能による視点の切り替え



任意の箇所へのコメントの入力



## **CADWe'll Linux 体験セミナー初級編 電気設備編**

2025年7月 第3版発行

発 行            株式会社ダイテック

- 本書の一部あるいは全部を、当社および著者の承諾なしに無断で転写、複写することは、法律で定められた場合を除き禁止します。

© 2025 DAITEC Co., Ltd.